

重点取組名	耕畜連携による資源循環型農業システムの実現
普及活動担当	宮城県栗原農業改良普及センター地域農業班，農業振興課
主要な活動地域・対象農業者	栗原市瀬峰地区 瀬峰地区循環型農業推進会議（27名）
取組結果・成果 <取組のねらい>	<p><取組のねらい></p> <ul style="list-style-type: none"> ・瀬峰地区では，水田のほ場整備事業を契機に13の生産組織が誕生し，農地集積が進んだことと，平成14年に家畜排せつ物法が施行され，畜産農家の家畜ふん尿の適正処理のため，堆肥センターの整備が必要となった。 ・しかし，有機物施用による土づくりは農産物生産の基礎として理解されているが，兼業化や高齢化等により堆肥散布の労力不足や機械等の手段がないこと，堆肥施用にかかるコストの増加等の課題があり，水田等への堆肥施用は減少している。 ・そこで，瀬峰地区では耕種農家と畜産農家が手を結び，農協や行政の支援のもと平成15年に「瀬峰地区循環型農業推進会議」を結成して，家畜ふん尿から良質堆肥を製造し，その堆肥で付加価値の高い農産物を作り有利販売することを目指し，スローガンに「安心・安全・おいしい瀬峰農場！＝循環型農業のまち瀬峰＝」を決定した。普及センターはこれらの地域の取組を支援している。 <p><取組の結果・成果></p> <p>循環型農業推進体制の確立支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成16年には，資源循環型農業の拠点施設となる「藤の花有機センター大里」（組合員6名）が建設され，栗原農業改良普及センターでは農協等と協力し，良質堆肥の製造や堆肥センターの運営管理等について支援した。 <p>堆肥利用農産物の生産販売支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・堆肥の有効活用を促進するため，米部門では堆肥利用の特別栽培米「藤ロマン」の作付・販売拡大を支援した。また，園芸部門ではねぎ，かぼちゃ，そらまめ，ミニトマト，ピーマン，きゅうり等7品目の生産販売拡大を支援し，特に，ハウスねぎの実証ほを設け，作期拡大や試食会でのニーズ調査による商品開発に取り組んだ。 ・平成17年には，「エコ・せみね」のロゴマークを商標登録し，良質堆肥を使い，「みやぎの環境に優しい農産物認証制度」の認定者やエコファーマーが栽培した農産物にロゴマークを添付し，有利販売やブランド化を図る販売戦略の構築を支援した。 ・さらに，良質堆肥で栽培した稲発酵粗飼料確保による畜産経営の低コスト化にも取り組んでいる。 <p>「瀬峰農場」の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成18年には「コンポストセンター藤沢」（組合員9名）と「藤の花有機センター富」（組合員6名）が完成し，個人の21施設と合わせて計24の堆肥製造施設が整備され，耕種農家と畜産農家が連携し，良質堆肥を使って安心，安全，おいしい農産物を生産し，有利販売を行う「瀬峰農場」構想が地域に浸透しつつあり，今後の発展が期待される。
連携機関，協議会等	瀬峰地区農業振興協議会，栗原市瀬峰総合支所，JA栗っこ瀬峰支店
取組の特徴や取組に際しての工夫	<p>大型堆肥センターの事業主体は市町村等が多い中で，瀬峰地区の3つの堆肥センターは全て農家の共同運営で，設備投資を抑え，家畜排せつ物の搬入，ローダー切り返し方式での堆肥製造，堆肥散布，運営管理まで全て農家が行っており，設置場所も耕種農家や畜産農家の利便性，受益範囲を考慮し，地区内にバランスよく配置している。</p> <p>循環型農業を全て担い手等を中心とする現場リーダーが立案から実行まで自主的に責任をもって行っている。</p> <p>役割分担として，栗原市瀬峰総合支所は交付金や助成金の運用支援，JA栗っこ瀬峰支店はロゴマークの商標登録やエコファーマー等認証取得，生産販売戦略の支援，栗原農業改良普及センターは堆肥の製造方法，堆肥センター経営管理，農産物の生産技術，商品開発，マーケティング等販売戦略構築など関係機関は農家の後方支援に心がけた。</p>
参考	